夕刊
磐城新聞
五月七日發行

定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾錢（郵税拾五錢）
廣告料金 營業廣告 金六拾錢 雜報欄 金九拾錢
五行十二字詰一行一回（場所指定一行卅錢増）
編輯印刷兼發行人 遠沼龍輔
福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所 磐城新聞社
登録交信略號（タイライツキ）
平局私書函第十二號 電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

齋藤茂吉小論（一）

島田忠夫

○序論

この間、小説家伊藤貴麿氏に會つた折故芥川龍之介氏の追懐談が出た。その折生前親交ある伊藤氏は、芥川龍之介氏を文藝批評家として最も認むべきであることを力説した。

予は芥川氏にはただ一度會つて、丈草の俳句などを聞いたに過ぎぬ。故にはつきり言へぬが、文藝批評家としての芥川龍之介論にはいさゝか讃意を表する。

そこで故芥川氏が、わが齋藤茂吉先生を論じた文章も、その全集中、予が最も愛誦するところである。故に、いまこゝに予が齋藤茂吉論を草するにあたつて、多くの踏襲する所あるを諒されたい。

乃ち予の齋藤茂吉論は、或は芥川氏の齋藤茂吉論であらうかも知れぬ。しかし予は最も敬虔な態度から、吾が茂吉先生の全幅を、或は一面觀を記さうと思ふ。

△

明治末期及び大正昭和を通じて、日本歌壇に於ける齋藤茂吉の名は、まさに白日の如く光りを放つてゐる文學を少しでも口にし、短歌を讀む者で茂吉の歌の一首や二首に目をふれぬ者は稀であらう。

また大愚良寛の研究に於ける、源實朝研究に於ける、天田愚庵研究に於ける、これらは又氏の短歌寫生の説、實相觀入の説と共に天下に有名である。

この天田愚庵和尚の研究の爲め、吾が平町に最近來泊されるのは、欣幸に堪えない。若しそれ、愚庵研究の上に資料の得る所あれば先生と共に予らの欣びも決して尠くはあるまい。未完

日常吟（五）

盛菊枝

參道のひた土歩む足音を己れ親しも聞き歩みつつ

灯の下に鋏取り出で暫は針の錆など落してゐるも

衣縫ひて足しびれけり返事つつ立ちがてに居て針數へをり

冬の田のはろ〴〵廣し群れたてば田圃雀の日昏れの疾さ

脊戸籔は雀のたむろ夕去れば啼き寄りにつつ吾が頭かゆし

全身の神經を一點に集中しての爭ひ
——快美な精力の耗磨

風呂（童謡詩）

山口正夫

今日は學校で
叱られて
まぶたが熱く
なりました
歸りは坂道
麥の笛
ビイビイ鳴らして
下りました
風呂に入つて
手をかんだら
青い匂ひが
殘つてゐた。

カットされたシーン

茅根伸太郎

もつれ合つた二つの蛇
相縛ちせん動する肉、肉
其の微妙な韻律
狂的ないぶき
まき起る空間の細い律動
鱗片のさやかな響き
官能に去勢されて
うつろに充血した目、目
極端にせばめられ
朦朧とした視野の中

上野公園

原勝

おもちやの露店
ならんでる
上野公園
日曜日。
向ふの方に
パラシユート
はうり上げては
客を呼ぶ。
そろそろ歩き
ひろさがり
芝にかげらふ
もえてゐて。
マントをぬいて
あたたかさ
かすみの中の
寛永寺。

拈華微笑

コールカッター勞働者マケター。飛んだ機械が出來たもの

◇

高利でも早いが有り難い。時が過ぎでは要らなくなる低利資金

◇

輕微と觀た霜害が何百町、見當違ひもここ迄來れば徹底してる

◇

大量檢視の七海部長。卅年の追憶を殘して丸腰となる

◇

あす三りんぼう。本格的の初夏氣分に入る

ラヂオ

…八日（金曜）…

仙臺 JOHK

△前六、三〇 七、〇〇A ラヂオ體操
△八、四〇A 經濟市況
△九、〇〇 氣象通報
△九、〇五 經濟市況
九、一〇 ーカル 料理献立（萱草と林檎の芥子和へ）佐藤三樹發表 日用品値段
九、三〇 一〇、三〇A 經濟市況
△一〇、三〇 一一、〇〇 ローカル 家庭講座（愛兒への話の仕方）鹽谷羊友
△一一、四〇A 經濟市況
△正午 時報
△後〇、〇五 〇、四〇 ローカル 落語（源平屋島の戰）三遊亭歌奴
△〇、四〇A 全國ニュース 河北新報社…ニュース
△一、〇〇 一、五〇A 經濟市況
△二、〇〇 二、三〇A 家庭大學講座（基督教の教義）明治學院中學部長都留仙次
△二、三〇A 經濟市況㈢
△三、四〇 氣象通報
△三、五〇 經濟市況
△四、〇〇A 全國ニュース 河北新報社…ニュース
△五、〇〇 五、三〇 ローカル 副業講座（養兎に就て）農林省副業課技師大山彥二
△五、三〇A 經濟市況
△五、四五 今晩の番組豫告
△六、〇〇 六、三〇F（子供の時間）お話（能地の浮鯛）松本道樹
△六、三〇 七、〇〇A 英語講座（初等科）岡倉由三郎
△七、〇〇A 全國ニュース（官廳ニュースを含む）河北新報社…ニュース 氣象通報 告知事項 番組豫告
△七、二五 八、三五A 謠曲（土蜘蛛）
△八、三五 九、三八B 人形淨瑠璃（菅原傳授手習鑑 松王首實驗の場）竹本津太夫
△九、四〇A 時報 全國ニュース 氣象通報 番組豫告 告知事項

時代警句（花盛）

○成功はすべての物を金にす……（自然と人生）
○位置は猫を虎にする……（黑潮）
○敗者の下ぐる頭は蹂躙せられ、勝者の微かなる一點頭は美德と稱せらる（自然と人生）
○地位が出來たら氣焔はなくなる……（黑潮）
○成功は由來度量を與へ、自滿は奇体に思慮を與ふるを好むものである……（同）

一日一禪

○
雲在嶺頭閑不徹
水流澗下大忙生

5月8日

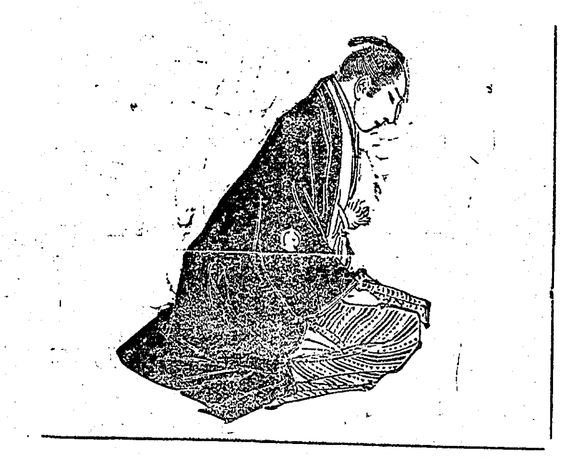
△大阪城陷る、關ケ原の戰後天下の權自ら徳川に歸す『君臣豐樂國家安泰』の鐘銘に辭を設けて秀頼を責む、片桐且元百方陳謝すれども肯かず、淀君短慮大野治長を寵して戰を開く、眞田幸村、後藤基次、木村重成、薄田直助等奮戰、冬の陣一旦和成り、夏の陣此日城遂に陷り秀頼淀君火を放ちて自殺し茲に豐臣氏亡ぶ（元和元）△淸國償金皆納（明治三一）

講談

元祿名妓傳

小邑井小巴演
（宮野恒彦畫）

六十五席



或る夜のこと杉村森右衛門は主人江川太郎左衛門から、急に用が出來た直に出ろとの沙汰がございましたと、夜中何事なるかと出て見ると、江川太郎左衛門殿の傍に、年齢三十歳前後とも見える、鼻目清秀な立派な坊さんが一人座つて居ります。杉『えゝお召により森右衛門罷り出ました』太『オ、森右衛門急に尋ねたいことが出來た、程ケ谷宿に於て近頃稀有のぞくを働いたものゝあつたことは、屆出によつて貴樣も存じ居らうが其の盗まれた奴は江戸本町三丁目の小西屋六左衛門、然るに此の小西屋六左衛門の娘と名乘るものが、浦賀表に於いて鍋島の家來鍋島益千代のため入水して、相果てたことを只今承はり及んだ、シテ見ると何かこのぞくと鍋島益千代と關係があるものゝ樣に思はれて來た、併し假にも鍋島の家來と名乘つてゐる、鍋島家のことは鍋島家でやるが當然で、我等の手出しは出來難い筋であるが、ぞくが當代官支配内で仕事をしたとあるから、捨て置きにはならぬと思ふ、一應は鍋島家へ掛合を遂げなくては困るが、然うしては時機を失ふことにもならう、其方は何う考へるなと尋ねられた、森右衛門棚からぼたもちとは是だと喜んだ、然うでなくてもお照のため何とかして鍋島益千代を引上げねばならぬ、夫れが出來なければ、アノをんなは逃げて行つて終ふ、主人を勸めるのは此時だと思ふから 杉『えゝ仰せ如何にも御尤も至極鍋島へ掛合ますれば返事の來ぬうちはぞくを前に見て居つても手を下すことが出來ません、近頃伊豆の下田に鍋島家の御用船と稱し、海ぞくの居ります事を突き止めました、構はずに手入れなさるが宜しうございます』太『宜しいと思ふか』杉『宜しいどころではありません、召取つた上海ぞくと分明しますれば、鍋島家から彼是申出る筋合はなくなります、よし又然うで無かつた所で、當方に夫れがぞく船であつたと云ふ證がありますれば、御當家ではお役儀を果したゞけのこと少しの手落もございますまい』太『夫では下田沖の鍋島の船は賊船に相違ないと云ふ、屹とした押えどころがあると申すのか』杉『左樣でございます、それは賊船と云ふ證があります』太『證がある、夫れは何で分つた』杉『先日外の取調べで、街道筋の雲助を調べさせに手代を下田に遣はしました、其時下田宿の入口の建場茶屋で、若い女と老人が駕籠に縛られてゐるのを見付け、怪しいものとして當所へ送りました、其女は甲州十條の相當な家の娘で件の老人と共に、ぞくにかどわかされたもので、其ぞくと云ふのは下田沖に停泊せる鍋島家の御用船龍神丸に居る、鍋島益千代と名乘る奴が張本人で、其の娘はぞくの顔も見知つて居ります、多分鍋島益千代と云ふのは世を僞る名で、何れは外に名のある奴と存じます斯う云ふ次第で下田沖の龍神丸といふのは、全くぞく船に相違なきこと其の女の口から明瞭になつたのでございます』太『ウムすると其娘と老人は當所に居るな!』杉『ヘエ手前お小屋のうちに……イヤ何當所に留置きましてございます』太『然らば夜中ながら、予自身で其の兩人を調べて見るであらう、早速に庭へ廻せ!』杉『畏まりました只今直樣連れ參るでございませう』森右衛門喜んだの喜ばないのぢやアない、是れでマアお照の足止めが出來たと、我お小屋へ飛歸りました 杉『お照喜べ、其方が望んで居るぞく退治のことが愈々出來る、我君が今晩其方達兩人を取調べ、下田沖の龍神丸がぞく船に相違無いとなれば直にお手配になるサア同道しろ、上の前へ出て遂一申上げろ』お照は喜びました 照『夫れでは手前の申したことを、殿樣のお聞きに達して下さいましたか……』。

高久病院
院長 高久忠
平町田町電五一三

芳醇無比
白馬の雪
松本德一吟醸
平電話二八五

セダン揃ひで!
貸切専門の!
昭和タクシーへ
三（サ）四（シ）三（ミ）番

雨傘と日傘
完全防水マント
清楚なパラソルさ
日本趣味の豊かな日傘
にツルヤ
平四・電一四〇

生花教授
池ノ坊流 生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

謹啓、新綠薫風の好季彌々御多祥の段奉賀上候陳者不肖事去五日より左記へ耳鼻咽喉科醫院開業致し候に付何卒御庇護相仰ぎ度御挨拶迄如此に御座候 敬白
平町南町（元眞木法律事務所跡）
醫師 增田[illegible]之

専門 一般内科
内科ハ何デモ診療致シマス
呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五（電話一八一番）
川井内科診療所
醫學士 川井重之
女醫 川井安子

ゴム引防水布各種
男女用學生マント二尺ヨリ取揃置候
平二丁目
すかや洋服店
電話二〇三番

夜間診療
胃腸 内科 十二指腸虫病 専門 内科部
梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 専門 外科部
松村胃腸性病科醫院
（平南町電話一〇七番）

◎レコード破りの
石炭大廉賣!!!
（磐城炭礦三等炭）
正味十貫目一俵 金卅錢也
◆品ガ良ク『値ハ安ク』ヲモットートスル當店ハ此度超破格ノ格安石炭ヲ販賣開始致シマス
◆値ガ安クトモ品ハ惡クハアリマセン
◎配達ハ一俵ヨリ致シマス
御注文は
電話二三七番
平驛前
阿部石炭商店

吉田眼科病院
平町紺屋町

長靴 小學生用 0.65ヨリ
と
防水マント 小學生用 0.95ヨリ
5丁目電353番
雨傘類取揃 モリタヤ洋品店

當面の難關突破には
機械化の一途のみ
各鑛の維持經營上
溫情主義を加味して人減らし

財界不況に因る各種事業の短縮、繋船の増加等さらでだに萎微不振のどん底に喘ぐ地方炭礦界は近來更に鐵道納炭の減少に加ふるに價格の引下げと云ふ空前の一大ストームに逢つて當面の難局打開に皆てなき苦心を重ねてゐる結果從來極度に切り詰めた從業員に對し尚ほ之の上相當の整理減員が行はるるではないかと此の際無理からぬ想像から生み出された風聲鶴唳は在所に炭礦勞働者の恐怖時代を現出してゐるが事業の經濟的合理化を圖るべく生產費の輕減を割する必然の結果として採炭其他に就て漸次機械化の方針を以て進まねばならぬ關係上各社共現在の勞働者に向つて或る程度の減員を斷行するは目下の處窒に己むを得ざる狀勢に置かれてある、即ち之を他方面の現況と比較するに既に勞力機械化の方針に基き坑夫の勞力に代ゆるにコールカッター（鑿岩機）等を以てしつつある方面に在つては一人一ヶ月平均の採炭量北海道三井砂川二七噸、雄別二五噸二分、空知二七噸、九州田川二四噸なるに對し石城地方に於ては目下該機を使用しつゝある古河が一九噸五分、之亦全部之れによる入山一七噸五分、その一部を之れによりつつある磐城が一六噸五分に過ぎず前記九北地方の何れに比較するも一人當りの能率に於て未だ遠く及ばざるものあり最も明瞭に從業員の過剩を物語つて居るので現在四千四百八十三人の多數勞働者を擁するに拘らずその能率に於て地方炭界中最下位に在る磐炭の如きは差當り生活に窮せしめざるを標準に現在數名の從業員を有する家庭より若干名を減ずると云ふ樣な方法により或る程度の整理を行ふ方針に出でつつあるものゝ如くである

優良納稅村及吏員表彰
廿三年完納の高久外三ヶ村

平稅務署管內各町村財務主任會は來十三十四の兩日稅務署樓上に於て開催さるるが當日

（二十三年間）高久村（各十八年間）豐間、神谷、川部

の各村は各頭書の期間中國稅の完納を續けて來た廉により納稅優良町村として仙臺稅務監督局長より

高久村收入役鈴木正一、同書記猪狩久男、豐間收入役鈴木清利、書記山野邊茂五郎、神谷收入役鈴木爲次郎、書記箱崎源之助、川部收入役園部常太郎、書記兒玉新吉

の各吏員は石川署長から何れも表彰されると

在職前後卅年に
大小檢視千數百
全國警察中の記錄保持者
七海巡查部長退職

內郷村綴請願巡查部長派出所七海寅十氏は三十餘年の警察界から勇退することになり今七日辭表を提出した氏は安積郡多田野村に生れ明治三十四年二月本縣巡查を拜命以來數年にして巡查部長に昇進縣下各署を經平署へは大正七年喜多方署より轉じ來り署勤務一ヶ年にして綴派出所詰となり復雜なる炭礦方面の擔當者として終始老練の手腕を揮ひ其間大正九年十月一日の出水當時に於て七十人、翌十年三月同樣出水にて百四十人、同年入山坑內爆發にて七十餘名、昭和二年磐炭坑內變災にて百三十四名、其他大小數多の檢視を取扱ひ其數千數百人に上ると云ふ檢視に於ては全國警察界中實にその類例を見ざる經驗家であるが曩に武道練習中足部に負傷以來兎角起居の自由を缺くに至り三十年の憶ひ出を殘し退職する事になつたのである

後任は今回植田署から同署に轉勤する佐藤利助部長らしいが未だ決定せぬと

永々待ち草疲れた
漁農村低利資金
囂々たる非難の裡に
來月中旬貸附け開始

漁農山村低利資金の貸付は昨年中其筋より融通方法が發表されるや極度に疲弊困憊に達した地方漁農村は旱天の慈雨の如き氣分を以て之を迎へ爭つてその恩典に浴せんとしたが何分その規則手續が煩雜を極め容易に融通の運びにならぬので一部町村に於ては相當非難する處あつたが結局脊に腹は換えられず郡養蠶組合の九萬七千圓木炭組合の一萬二千圓を筆頭に各町村共その申込をなしたが書類の不備其他から返還された者續出し之には各町村共悉く手を燒き何日その融通を受けられるものやら漠然たるものあるので一方ならず心痛した向もあつたが愈々六月中旬迄には全部現金を貸與される事となつたと

溫泉情話
その頃の湯本
（5）

戀は曲者である、一夜虛飾無き千鳥の溫かき胸に見果てぬ陶醉の夢に耽つた小名濱の伯樂は、身の妻子あるを忘れ更に目前に迫る米鹽の資に事欠くも忘れて魂ぬけた夢遊病者の如く無理な暇を作つては、二里八町の軌道を馬の足搔きもどかしく湯本へ通つた。

始末の惡い四十男の遊蕩に無け無しな簞笥の底を叩いた伯樂の妻は糠に釘な良人への諫言を思ひ止まり、今はたゞ無心に眠る小兒の頭を撫で乍ら、頤を襟深く埋めて深い太息を洩らすより外に術無かつた。

而も放埓な治兵衞にかしづくおさんの如く伯樂の妻は飽く迄も溫良貞淑であつたが、果ては健康を傷ふ迄に心の平靜を喪つた夫に對して旋て。

――この褻の懷ろには鬼が住むか蛇が棲むか去年のいのこ明け、炬燵開きのその宵に枕竝べたそれきりで――と常日頃の空閨を訴へ更に。

――泣かしやんせ泣かしやんせ、その淚が蜆川へ落ちて、小春が汲んで飮みやらうぞえ――と一語は一語より哀切を極めた恨みつらみを竝べる樣になつた。

一方あすは向ふの岸に咲く萍の四邊寄る邊無き苦海の只中に地獄で佛の同情者を得た娼妓千鳥は、男の妻子眷族には濟まぬ事とは思ひ乍らもお互無理な算段に束の間の媾曳を樂しむ樣になつた。

斯くして行き着くべきは二進も三進も行かぬ絕望の彼岸である事勿論である。

男は一夜ふり落つる淚の下から、身の死以外に遁る術無いを女の前に告白した。女は切ぱ詰つた忠兵衞の肉の落ちた橫顏に止め度ない熱淚を濺いで。

――戀うはたがしたわしがした、この梾川がした故にとそのいぢらしいやら悲しいやら綿々切々の情を男に打ち明けるのであつた。

これ兩者が多恨な否咽り泣く樣な感謝の裡に世にも哀婉なる心中を企つるに至つたプロセスの大体である

――時なるかな厭世の少年哲學者藤村操は華嚴巖頭『悠々たる哉天地』の絕句を遺し永遠に解けざるスフヰンクスの前に殉した。

この兩者の心中に對して當時湯本の詩人は謳つた。

大なる悲觀は大なる樂觀と一致するを。

磐城高女
旅行團消息
◇…四年生百六十名一行

鴨川の水淸き
初夏の京洛

愈々京都に入り先づ御所を拜し、君と臣との關係を泌々憶ひ深い念に堪へられなかつた、これより平安神宮、智恩院丸山公園、八坂神社とスピードを出して見學し旅に疲れた足を宿に止めた――翌日雨かと思つた鴨川の流れに起されて午前七時元氣に玉砂利を踏みつつ桃山御陵へと向つた。電車より見える所に多くの茶畑があつたのも前々から先生の御敎へでよく氣がついた。御陵より乃木神社を參拜しおはせし日の明治大帝ありし日の乃木大將思ひ合せて何さなく涙ぐましい胸の迫るを覺えた。其處より三十三間堂、大佛、淸水寺、嵐山、金閣寺と廻り歩いた。殊に嵐山は疲れた心をのんびりと樂しませ休息せしむるに好都合な土地であると思はれた。

――午後五時頃宿に着く二階より夕日の薄れかかつた鴨川で男が染絹を濯ぐ態も如何にも京らしく柳に映る燈も異つた一種のなつかしみを覺えしめた。（四日第二信五條辨慶樓にて）

七堂伽藍
靑丹よき奈良

東本願寺の大きな建物にたゞ驚きの聲を發し乍ら色々と見學をさせて呉れた京都に別れを告げて再たしても車中の人となりました。奈良へ。之亦私達の待ち遠ほしい都です、一時間足らずで奈良の都へ到着する事が出來ました。南都八景の一の猿澤の池、京都の淸らかな水を見て來た爲か水の美しくないのは遺憾に感じました。春日神社の鹿を見ては『山ふかみなるるかせぎのけちかさに――』の西行法師の歌を思ひくらべて異樣の感じしました。繪に見る如き嫩草山とよく聞かされましたのも今眼前に眺めてその言葉の僞でない事を十分に味はれました。全山芝草で氣持ちの良い傾斜をもつ若草山――點々として見ゆる人の群。まことに綺でありました。

三月堂、二月堂の寺院の見學も京の氣分とはまた異つた味ひを得ました。大佛の大きな〳〵み姿を頭に刻みつけられ樂しい五日間の旅枕に入りました。（五日第三信驛前いろは旅館にて）

目下判明の分丈けで
全滅五十町步 半減百町
一般の想像に反して
意外に甚しかった石城の霜害

去る一日夜の雷雨後氣溫が著しく低下し二日は二度八分三日朝は零下二分で石城地方一帶に降霜あつたが桑葉その他の被害は極めて輕微なものと豫想されてゐた處實際被害は可成り甚大で今七日午前中迄郡農會宛報告された郡下各村の被害は次の如くで上遠野、入遠野最も甚だしく左記の外各村五分見當の被害に當らうと觀られてゐる昨今の氣溫は俄に高まり八十五六度を上下して眞夏の如き馬鹿陽氣なので何日再た降霜無いとも期し難いので極度に狼狽した郡養蠶組合では一般養蠶業者に對し昨六日夫々警告を發した

△入遠野桑全滅二十町步五割程度十五町、三割十町、馬鈴薯五割四十七町△上遠野全滅十町九段、七割三町二反、五割五町四反、三割二町五段△上下小川六割十六町五段△好間村三割六町九反、馬鈴薯三割五反△鹿島全滅二十町（全滅の程度は桑葉黑燒となり使用し能はぬもの）

湯本への送湯は
結局廣畑から平
喧嘩別れになる事は
萬あるまいとの觀測

湯本溫泉對磐城炭礦の送湯問題は双方に夫々主張の理由あるものとして目下その成り行きを刮目されてゐるが現在の送湯を廢止せねばならぬと云ふ綴坑の充塡工事は同社の事業進行上如何にしても遂行せねばならぬので結局現場より三四町の近距離に在る廣畑坑より送る事になるらしく兩者歩み寄りの上之れに決定する時は殘る問題として經費關係が起つて來るが之れとて多少の曲折は免れぬとしても早晚解決され湯本は曲りなりにも從前通り溫泉地としての餘喘を保ち得る事になるであらうと消息通の觀測である

組合理事選擧　石城販賣利用組合評議員會は來十八日午前九時から郡農會樓上で開催し理事缺員二名の補欠選擧を行ふと

入山軍敗る
磐中對野球戰

入山礦對磐中校の野球試合は昨六日午後二時半から入山グラウンドに於て金土球審國井壘審の下に行はれたが八對五で入山敗る

四倉繭市場
廿三日頃取引開始

石城販賣利用組合四倉繭市場は來る二十三日頃から取引を開始する豫定であると

乘降一割三分減
不況と自動車が
平驛の收入に影響

平驛の乘降人員は不況と自動車の發達とで逐年減少の傾向を辿りつつあるが去月中の實績を見るに乘車三十八萬二百四十一人降車三十七萬六千四百四十人で前年同期に比し乘四萬八千七十八人降四萬八千三百二十八人（何れも一割三分弱）の減少を示し尙ほ賃金も二萬九千二十圓が二萬七千三百八十一圓で一割以上の減少である

艶罪黑白

◇麻雀と社交ダンスと何方が面白いかといふ、事ほど左樣にダンスは享樂氣分の橫溢したものだ、適度の運動になるのと長時間を要しない點でダンスが優つてるか知れない平にも近い內ダンスホールが出來るとしたら、奧樣連の心配はハテごつちかな

◇處でどうも每晚藝者を相手では財布がダンスを始める、といつて晚酌後細君相手にレコードを掛けては近所の思惑もあらう其處をねらつたダンスホールは成功するゆめ疑ひなし。早く出來れば好いなどと不良中年組は勿論光頭會員らしい老輩までいつてる。

初＝夏＝と＝警＝察＝
エロカフエーに恐い眼
一齊視察で槍玉

いよ〳〵魅惑的な初夏を迎へた平町內に最近恐ろしい勢ひで東都風の流れが織込まれ一層モダーンなカフエー、バー等の營業振りが華やかな店頭の蔭には變態的なエログロが溢れ風紀問題で兎や角と云々されて來てゐるので平署では

これ等營業者に就いて近く一齊調査を行ひ保安衞生上の取締りを嚴重にし殊にグロテスクなサービスで風紀を紊してゐる者や女給等の雇ひ入れを、その筋に屆け出ないもの等發見した場合は斷然お灸を据える筈である

豐間のチブス豫防
六百名に注射

豐間村では昨六日午前九時から同村役場樓上に於て村民約六百名に對しワクチン注射をなしたと

平町人事

△出生

久保町二七遠藤忠治三男忠利

鎌田町一四草野村下神谷八鎌田喜右衞門長男克己

白銀町三〇淸水滋二男好直

▲死亡

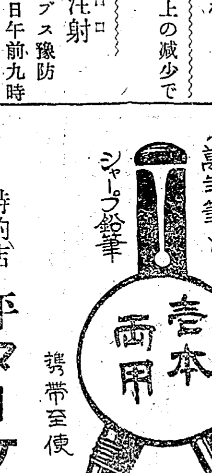
紺屋町五郡山市鎰田二七猪狩育子（四）

長橋町一八東京府下荏原郡蒲田町北蒲田六八七大谷フデ（四四）

醫院開業
專門
產科
婦人科
花柳病科
◎午前宅診 ◎午後往診 ◎入院應需
井坂醫院
平町田町（舊合津醫院跡）
電話五五九番

池坊龍生派 免許狀授與
今般石城郡平町六丁目華道敎授正木旭松門弟常ニ華道熱心ニシテ日夜勉勵成績優良ナルヲ以テ玆ニ昭和六年四月十九日東京家元ニ於テ春季立華生花大會合格ノ上左ノ人名ハ免許狀授與セラル
敎員免許狀 平 正木ヒサ子
同 平 佐藤ミヨ
同 植田 柴キヨ
皆傳 植田 佐藤ハツ
同 平 渡邊ツナ
中傳 植田 二階堂ヨシノ
初傳 平 廣田マサ
同 平 滿山リン
同 平 吉野シゲコ
同 鹿島 佐藤リン
同 植田 木村サト
同 植田 馬上ミト
同 植田 古川モク
同 植田 櫻田サト

お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油
たひら正宗
鰹節 食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番 本店二七番）



セントラル萬年筆SF號
萬年筆とシャープ鉛筆
壹本兩用
携帶至便
特約店 平マーケット
御買上の方へ景品進呈

醫院開業
私儀今般左記場所に醫院を開業診療に從事致すべく候
平町新川端（釜屋新宅向）
醫學博士 難波睦
難波醫院
電話五〇二番
內科一般
午前宅診（午前九時より）
午後往診
但し急患は此の限りに非ず